



金沢脳神経外科病院だより ふれあい

2008年
夏季号

日本医療機能評価機構認定病院
医療法人社団 浅ノ川
金沢脳神経外科病院 広報誌
第31号
発行所 メディア広報室
石川郡野々市町徳用町315
TEL 076-246-5600
FAX 076-246-3914
URL : <http://www.incl.ne.jp/knouge/>

病院理念

脳神経外科専門病院として私達は患者の皆様に、より高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。

基本方針

1. 患者の皆様の権利と人間性を尊重した温かい医療の提供に努めます。
2. 地域の医療機関と連携を行い、患者の皆様が安心と満足の得られる医療の提供に努めます。
3. 脳神経外科専門病院として、地域の救急医療の提供に努めます。
4. 急性期から回復期リハビリ、慢性期の一貫した医療を提供します。
5. 患者の皆様に対して、適切な言葉と態度を心がけるよう努めます。
6. 患者の皆様のご意見、ご希望を医療に反映させるよう努めます。

患者さまの権利

私達は患者の皆様の権利を尊重し、信頼に基づいた医療を行うため、患者の皆様の権利に関する宣言を掲げます。

1. 適切で最善の医療を公平に受ける権利
2. 検査や治療について真実を知り、充分な説明を受ける権利
3. 検査や治療を受ける権利と受けることを拒否する権利
4. プライバシーの秘密保持を得る権利
5. 病院や医師を自由に選択し、あるいは変更する権利

病院長



新たな旅立ちを前に

病院長 佐藤 秀次

新病院完成を間近にして、その構想を述べさせていただきます。新病院では、本院が今まで担ってきた急性期医療、回復期リハビリテーション、そして医療型の療養を引き続き担当いたします。新しい事として、急性期医療部門に脳卒中センターと脊椎センターを設立し、先進治療を担います。脳卒中センターでは、tPAを用いた脳梗塞の血栓溶解療法の推進と脳出血やくも膜下出血の治療の質的向上を目指します。これらの要は救急車の速やかな受け入れであり、救急隊と更なる連携強化を図

ります。

脊椎・脊髄疾患センターでは、高齢化社会にあって増加する椎間板ヘルニアや狭窄症、脊椎症などに対する手術治療の低侵襲化を図ります。

平成14年に着手した脊椎のMD手術は既に1200例を超えて、現在、手術を希望する患者さんは半年以上待たなければならぬ状況です。MD手術の術者育成は本院の重要な課題と位置づけています。

11月18日から現在と同じ野々市町の郷町で本院は再スタートしますが、医療をとりまく状況は悪化の度を深め今後、ますます前途多難であること暗示します。しかし、地域医療の担い手として、本院が開院以来追求してきた「患者中心の医療」という理想へ向けて、職員一同力を合わせて参りますので、地域の皆様の更なるご協力を宜しくお願い致します。



「新病院の ご近所さん」紹介①

登録医療機関紹介コーナーでは、今回から3回にわたり、新病院から歩いて行ける医療機関「新病院のご近所さん」の紹介をさせていただきます。

第1回目の今回は、

やなぎ内科クリニックです。



院長
柳 昌幸 先生
〒924-0802
石川県白山市専福寺町161番1

”地域に密着した

「かかりつけ医」として
健康をサポート!!

現在建設中の新病院を出て鶴来方面へ歩くこと3分、茶色の壁面にクリーム色のアーケード

が特徴の素敵なクリニックが見えてきます。今回、紹介させていただく医療機関「やなぎ内科クリニック」です。

院長の柳 昌幸先生は、昭和61年金沢大学医学部を卒業後、第一内科、関連病院を経て、アメリカへC型肝炎の研究のため留学されました。平成11年帰国されると活躍の場を研究から臨床の場へ移し、河北中央病院、金沢赤十字病院に勤務され、平成19年1月、白山市専福寺町に開院されました。

やなぎ内科クリニックは、

- ①頼りになる「かかりつけ医」
- ②迅速かつ的確な地域病診連携
- ③わかりやすいインフォームドコンセントの3つの方針を重視し、一般内科を中心に専門である肝臓病や消化器疾患、胃・大腸内視鏡検査治療などの診療を行っています。

特に苦痛の少ない内視鏡検査は最新機器を導入し、祝日を除いて毎日検査可能な体制をとつております。また、往診にも力を入れ、気管切開、中心静脈栄養等、医学的管理の必要な方の在宅療養生活を訪問看護師と連携し支えておられます。



やなぎ内科クリニック
全景



平成2年	昭和61年
平成7年	金沢大学医学部附属病院 第一内科 勤務
平成11年	国立金沢大学大学院 医学研究科 (内科) 修了
平成16年	アメリカ国立衛生研究所 (NIH) 客員研究員 勤務
平成19年	町立河北中央病院 勤務
	金沢赤十字病院 第四内科部長 勤務
	やなぎ内科クリニック 開業

【所属学会・認定医等】

- 日本内科学会 認定内科医
- 日本消化器病学会 専門医
- 日本消化器内視鏡学会 専門医
- 日本医師会 認定産業医
- 日本癌学会会員
- 日本肝臓学会会員

「趣味の旅行やテニスに行く時間はありませんね。」と多忙な毎日を送る先生は、ご近所となる当院に認知症の初期診断と脳卒中の24時間対応を期待しているとおっしゃっていました。地域に密着し、信頼される「かかりつけ医」をめざし日々努力されている先生の期待に応えるべく、当院も脳神経外科専門病院として尚一層の努力を重ねていきたいと考えております。

『皆さまの町で耳寄りな講演会』を開催しました!

講演日	会場	テーマ	参加人数	講演者	主催
5月27日	ホテル日航金沢	「脳卒中」について	約60名	山本副院長	金沢南ロータリークラブ
6月5日	松任ジョイモール	そこが知りたい 「脳卒中と認知症」	約50名	山本副院長	白山市松任暁星クラブ
7月26日	白山市立美川図書館	「脳卒中と認知症」	約50名	山本副院長	白山市美川老人会鶴亀会

毎回、大勢の方にご参加を頂き、ありがとうございました。これらの講演会を通して、みなさまの健康に対する関心の深さを改めて知ることが出来ました。今後とも、微力ながらお手伝いさせていただきます。皆さまの町で講演会を計画されている場合は、お気軽に当院までお問い合わせください。

(担当:久野)

6月26日に、金沢市内にて「第1回 加賀脳卒中地域連携クリニカルバスWG¹（仮称）会議」が開かれました。加賀脳卒中地域連携クリニカルバス（以下、加賀連携バス）は、当院が中心となつて原案を作成しました。これは「脳卒中になつても石川県が安心できる有数の地域になれるよう」、「このもとに作られました。

今回のWGでは当院の担当者より活動内容及び運用についての説明がなされました。それぞれの質疑応答の時間

加賀脳卒中地域連携クリニカルバスWG会議開催

には各施設の方々から多くの質問や意見が寄せられ、本バスへの関心の高さが伺われました。今後、定期的に会合を重ね、より良い加賀連携バスになるよう各施設が協力していくことで合意されました。

※1・WG（ワーキンググループ）「作業部会」のことです。ここではクリニカルバスの原案の作成・見直しを行う部会のことを言います。
※2・クリニカルバスとは、ある病気の治療や検査に対して標準化されたスケジュールを表

用語解説



'08第1回日本病院脳神経外科学会に参加しました

7月19日・20日に札幌市で開催された第11回日本病院脳神経外科学会にて、当院は2演題を発表しました。演題名

は、放射線部の「R-Iのムダを省こう」と第3病棟の「消臭小力！～悪臭退散！クリーンだよ3病棟～」です。どちらも、3月に行われた院内QC発表会で上位入賞した演題です。全国レベルの発表会ということで双方の演者ともかなり緊張したようですが、概ね良い評価をいただきました。

また、QC発表会で第1位を獲得した演題は、10月31日・11月1日に開催される全国QC大会で発表する予定です。

患者さんコートナード

尾嶋 克征様

私が金沢脳神経外科病院に救急車で運ばれたのは、平成17年11月28日だったと思います。

その時は歩くことは勿論、両手の握力もほとんどなく、それは大変な状態でした。入院したときは、手術の予定が混んでいて12月末頃になるかも知れないとのことでした。

しかし運よく12月12日に手術予定者の欠員ができ、頸椎と腰椎のヘルニア手術を同時にを行うことになりました。手術するのに最初は不安もありましたが、院長先生と鳥越先生の熱心な説明と適格な対応に安心して何の不安もなく手術を受ける決心をしました。手術は、全身麻酔でかなり長時間に及ぶもので大変だったと思います。手術後10日間ほどはベッドから降りることも身体を動かすことも痛くて辛かったです。

車イスに乗れるようになり、リハビリへ行くことができる頃もまだ背中が痛くて歩くことなんて夢の中のことと思つていました。それでも1月に入り車イスから歩行器になり、背中の痛みも少しずつとれて気分も落ち着いてきました。ただこの頃一番辛かったのは右手のリハビリでした。

3月に入り初めてリハビリ室から出て歩道を歩いた時の感動は今もハッキリと頭に残っています。それから天気の良い日は2人にお願いをして時間調整をしてもらい、リハビリと外での歩行訓練、階段の昇り降りの練習もさせていただきました。2人にはかなり無理な事も言つたかもしれません、お陰で私は退院の日まで楽しくリハビリ生活ができ今思い出しても懐かしくさえ感じます。

平成20年度 第1回 救急症例検討会 地域連携室

7月9日、当院主催で「平成20年度第1回救急症例検討会」を開催いたしました。

検討会では、金沢市消防局、白山石川広域事務組合消防本部、能美広域事務組合消防本部並びに石川中央保健福祉センターの方々に参加いただき、本年2月から5月に当院に救急搬送された174件の中から、特に今後レベルアップに繋がると思われる3症例を選び、当院医師と熱心な討議が行われました。

検討会に引き続いて、山本副院長が「頭部外傷」について小勉強会を行いました。また当院の地域連携室から、救急搬送データの報告を行いました。

今後も地域において円滑で適切な救急医療を提供するため、救急症例検討会を継続・発展させて救急隊との連携の強化に努めていきたいと考えております。

次回は新病院での開催を予定しております。

私は平成18年5月2日に退院して日

